

平成 2 1 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は本州南岸沿いを低気圧が短い周期で通過し、東・西日本と南西諸島では曇りや雨の日が多くなりました。中旬は日本海を低気圧が短い周期で通過し、北日本では曇りや雨または雪の日が多くなりました。また後半には高気圧が日本の南を東進したため、北日本や本州の日本海側を中心に顕著な高温となりました。下旬は始め低気圧が日本海を発達しながら通過し全国的に高温となりましたが、その後は強い寒気が南下したため東・西日本を中心に顕著な低温となりました。

月を通しての日照時間は北日本では平年より少なくなりましたが、その他の地方は平年並みとなりました。降水量は北日本から東日本にかけての日本海側で平年より多くなりましたが、その他の地方はほぼ平年並みとなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

【3月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報で 83%と例年（注）並みで、明後日予報で 80%と例年より 1 ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は東海地方をのぞいて北日本から東日本では 1 から 4 ポイント低く、東海地方と西日本から南西諸島ではだいたい 2 から 4 ポイント高くなりました。明後日予報は中国、四国、沖縄地方では 5 から 8 ポイント高くなりましたが、その他の地方はほぼ例年並みでした。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて北日本から中国地方にかけて 0.1 から 0.4 小さくなり、全国平均では 0.2 小さい 1.6 でした。また、最低気温の予報誤差は北日本から東海地方にかけて例年より 0.2 から 0.3 小さく、全国平均では例年より 0.1 小さい 1.5 でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報から】

3 月 20 日 9 時の天気図（図 1）では、千島近海にある低気圧からのびる寒冷前線が関東地方南部にかかっています。

当日 5 時に発表した天気予報では、東京地方の天気を「曇り 朝から昼前雨 のち晴れ」とし、9 時から 18 時までの日中の最高気温を 16 度としました。これは、千島近海にある

低気圧からのびる寒冷前線が昼前には東京地方を通過するものの、上空の気圧の谷が通過するのが昼過ぎになるため、晴れてくるのは夕方になると予想したからです。また、当日の最高気温については、寒冷前線通過後は気温が下がり、夕方から晴れても気温はそれほど上がらないと考え、寒冷前線が通過する前の午前9時頃が最も高くなると予想しました。実際には、寒冷前線は予想したとおり午前9時前に東京地方を通過しましたが（図2の青点線）上空の気圧の谷が予想よりも早く通過したため、午後からは晴れました。気温は一旦下がったものの日射の影響で上昇し最高気温は予想より3.9度高い19.9度（14時18分）となりました。

このように、寒冷前線の通過は予想できましたが、上空の気圧の谷の通過を適切に予想できなかったために、天気回復のタイミングがずれて、天気の影響を受けやすい気温の予想がはずれる結果となりました。天気は前線の通過や上空の気圧の谷の影響の程度などにより大きく左右されることがありますので、このような細かい天気の変化もより精度よく予想できるように引き続き取り組んでいきます。

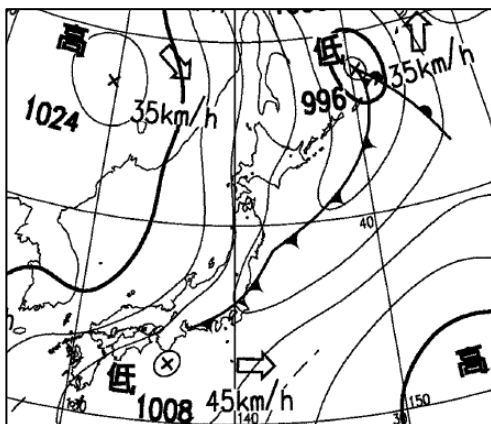


図1 3月20日9時の地上天気図

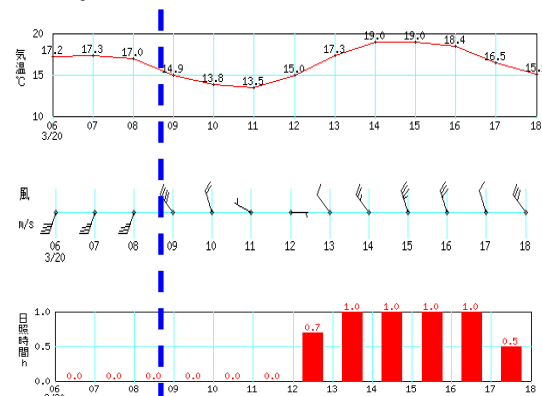


図2 6時から18時のアメダス時系列（東京）
上から、1時間ごとの気温、風向風速、日照時間。
グラフでは、午前9時に風向が北西に変化しています。なお、風速の長い羽根はメートル、短い羽根は1メートルを表します。

【5月の天気予報の利用にあたって】

5月は穏やかな晴れの日が多い反面、低気圧が発達しながら通過し、大荒れの天気となる場合もあります。また、発達した低気圧が通過しなくても、上空に北からの冷たい空気が入って大気の状態が非常に不安定になって雷雨が発生する場合もあります。5月は行楽やスポーツなど屋外で行動する機会が多くなりますが、穏やかな晴れから一天にわかにかき曇り、天気が急変してひょうが降ったり雷が落ちたりすることもありますので、警報、注意報や天気予報などの最新の気象情報をこまめにチェックすることをお勧めします。